

東北森林管理局

# 朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター

平成18年度 年 報



(小朝日岳から大朝日岳を望む)

〒997-0404 山形県鶴岡市下名川字落合3

電話:0235-58-1730 FAX:0235-58-1731

ホームページ: <http://www.fureai-kokuyurin.jp> E-mail: [t\\_syonai\\_f@rinya.maff.go.jp](mailto:t_syonai_f@rinya.maff.go.jp)



## 平成18年度朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターの活動状況(概要)

活 動 事 項	取 組 内 容
(1)朝日山地森林生態系 保護地域の保全管理	管理委員会(6/20) 溪流魚モニタリング調査(9/3～8) 森林植生モニタリング調査(9/4～6) 森林植生モニタリング追加予定箇所設定(9/7) 森林植生モニタリング追加予定箇所調査(9/8～9) 合同パトロール(7/23,29,30) 歩道(ショートカット)現地検討会(9/29) 巡視員会議(6/25、12/9) スノーモービル実態調査等(5/3,3/17,24,25)
(2)庄内海岸林の保全活動	森林ボランティア活動 クロマツ植樹(4/15) 庄内海岸の環境美化活動(5/13) 浜中クロマツ林整備活動(8/26) 森林ボランティア活動の支援 酒田北高校：松林整備ボランティア活動(6/14) 酒田都市公園等環境美化活動(6/24) 酒田第一中学校：クロマツ林を守る活動(7/3) 遊佐中学校：森林整備体験学習～砂防林整備活動～(9/13) 酒田工業高校：砂防林整備ボランティア活動(10/20) 「砂防林を育てよう」活動(11/12) 遊佐町西山地区森林整備ボランティア活動(12/3) 「出羽庄内公益の森づくりを考える会」 (第1回:5/15、第2回:8/31、第3回:2/26) クロマツシンポジウム(11/11)を後援 酒田地区森林ボランティア関係団体連絡会議(6/26) 万里の松原に親しむ会総会(4/15) 庄内海岸のクロマツ林をたたえる会総会(2/26)
(3)高館山自然休養林 の保全活動	森林整備ボランティア(刈出し作業)(7/22) パトロール(4、3月)

(4)緑の回廊における 取組	第2回土湯の森自然再生検討会(7/5) 第3回土湯の森自然再生検討会(10/24)
(5)森林環境教育の推進	朝日自然塾発足式(8/27) 朝日自然塾プログラムの開講(9/9,9/23,10/14,10/21,3/3) 朝日自然塾連絡協議会(11/24,25)
(5)森林倶楽部を支援	鳥海山麓、新緑の二の滝溪谷散策(5/27) 月山の名花クロユリ(黒百合)を訪ねて(7/8)
(6)各種イベント等	山開き(朝日連峰(旧朝日村):5/28、月山:7/1) 庄内地方林業振興協議会(5/10) やまがた森の感謝祭(6/3) 「森と水そして月光のしらべ」後援(6/10,11) 鶴岡市朝日地域山岳遭難救助対策委員会(7/12) 月山地区山岳遭難・山林火災対策協議会(8/2) 山形県国有林野等所在市町村長有志協議会(8/30) ウッドフェスティバル2006(鶴岡会場)(10/14,15) ウッドフェスティバル2006(酒田会場)(11/3) 月山ダム水源地域ビジョン幹事会準備会(4/27,5/23) 月山ダム水源地域ビジョン推進協議会(1/30)

# 1 朝日山地森林生態系 保護地域の保全管理

## 管理委員会を開催

～ スノーモービルの乗り入れ問題等を  
論議～



朝日山地森林生態系保護地域管理委員会が発足して4年目を迎える、平成18年度第1回管理委員会が6月20日山形市で開催されました。

事務局を代表して東北森林管理局亀下計画部長から、「森林の保護と利用の調整が大きな問題となっている中であって、管理委員会查としてこうした議論を進めていただいております、引き続き指導を得ながら対応していきたい」と挨拶がありました。

委員会の議題として、モニタリング調査、ボランティア巡視活動、標識の整備、歩道（ショートカット箇所）現地検討会、森林生態系保護地域の歩道について、スノーモービル乗り入れについてなどが事務局より提起されました。

主な論議としては、森林植生モニタリング調査については、山菜採取が森林生態系に与える影響を広い地域で把握するために、西川町地内に調査箇所を1箇所新設することについて了承されました。また、イワナの遺伝子調査については、県水産関係者等との連携など更に検討することとなりました。巡視活動に関しては、巡視員数が当初の目標規模に近づいてきていることや、巡視活動による成果として、歩道の保



全に向けた取組などを評価する意見が出されました。生態系保護地域における歩道の維持管理については、森林生態系に対し負荷の小さい歩道であることなどの事務局案に対し、「総論」として理解を得られました。更に、具体的、個別的には、ケースバイケースの対応を求める意見が出されました。スノーモービルの乗り入れについては、猛禽類等生態系への影響が懸念されることから、早急な対応が必要との認識で委員会が一致しました。今後、関係機関が一体となって取組を進めることとなりました。

その他、管理委員会の論議概要等を東北森林管理局のホームページに掲載することについても確認し、委員会を終了しました。

## 巡視員会議（春季）開催

～巡視活動方針等の意見交換と

関係法令講座を実施～



朝日山地森林生態系保護地域における巡視員活動が発足して3年目の夏山シーズンを迎えるにあたり、今年度の巡視活動方針等について意

見交換を行い、巡視活動における安全確保と巡視レベルの充実を図るため、6月25日鶴岡市下名川において、巡視員29名と国有林関係者10名により春季巡視員会議を開催しました。

会議の冒頭、東北森林管理局を代表して高倉指導普及課長から、「今年度の巡視活動のスタートにあたり、本日の会議においてお互いの情報交換と情報の共有を図り、朝日山地をより良い環境で保護していける体制づくりをお願いしたい」と挨拶がありました。

会議では、平成18年度巡視活動方針、スノーモービル乗り入れ実態調査報告、歩道（ショートカット箇所）現地検討会及び合同パトロールの実施等について提起されました。

意見交換では、釣り人のテント泊などで焚き火が行われていることが、雑誌の写真で報道されているので対策が必要ではないか。スノーモービルの乗り入れ禁止等の検討にあたっては、スノーモービル乗り入れ団体（グループ）や地元観光団体等とも話し合いの場をもって欲しい。昨年設置した標識は雪により支柱が折れ曲がったりしており検討が必要。合同パトロールの日程については、実施日を固定しないで、前の週との二段構えで実施したらどうか。

「朝日自然塾」の開講にあたっては、都市部の子供を対象とする場合、課題も多いと思われるので、具体的な方向は早めに相談して欲しい。などの意見が出され、事務局としては出された意見を踏まえ、今後の対策を進めることとしました。



午後からは、森林法（保安林）や自然公園法の講座が実施され、講師として高倉指導普及課長並びに環境省羽黒自然保護官からそれぞれ切れ味の良い説明がなされました。巡視員からは、今後の巡視活動にあたって大変有意義な講座であったと好評でした。

## 合同パトロールを実施

～山岳・溪流4コースに30名参加～

平成18年度合同パトロールは、7月23日に祝瓶山コースと朝日川溪流コース、7月29日～30日は日暮沢～大朝日岳コースと大鳥池コースに分かれて実施しました。

各コースとも入山者へのマナー指導と投棄ゴミの回収を行いながら、歩道や保安全管理に係わる事項について点検を行い、結果については秋季巡視員会議に報告しております。



（大鳥池コース）



（溪流コース）

## 巡視員会議(秋季)を開催

～懸案事項に一定の方向付け～

秋季巡視員会議は12月9日鶴岡市下名川「すまいる」において、巡視員及び関係者37名が出席して開催されました。

会議では懸案事項である、歩道(ショートカット)問題については、森林生態系への影響を考え、ショートカット道の通行を遠慮してもらう看板を設置する。大朝日岳周辺における禁止されているテント設営問題については、関係機関が連携してパトロールの強化や月刊山岳誌への広報依頼に取り組む。スノーモービル乗り入れ問題については、自粛を要請する立て看板の設置と実態調査を継続する。など一定の方向付けを行いました。

また、巡視結果報告として出された「マナー問題」、「歩道整備」、「保全管理」に関する事項についても活発な意見・情報交換を行い、合意できた部分については、今後の巡視活動へ反映させていくことや、原種イワナの生息環境など、溪流(川)についても森林生態系として一緒に考えていかなければならないとの認識で一致しました。



## スノーモービル乗り入れ自粛の看板設置

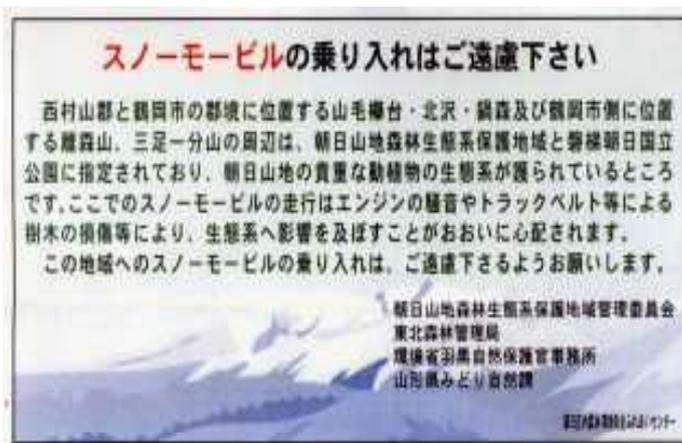
～生態系保護地域への乗り入れ自粛を要請～



朝日山地森林生態系保護地域内にスノーモービルが乗り入れることにより、生態系への影響が懸念されることから、6月開催された管理委員会において、その対応について関係機関と一体となって取り組むこととし、当面の措置として生態系保護地域内への乗り入れを遠慮する看板の設置を検討することとなりました。

これを受けて、スノーモービルの乗り入れ時期に合わせ、3月17日(土)に出羽三山の自然を守る会、環境省羽黒保護官事務所、山形県、関係森林管理署等の立会のもと看板を設置しました。

今後も引き続き、乗り入れ時期に合わせ、実態調査と乗り入れ自粛の協力を呼びかけていくこととしています。



## 2 庄内海岸林の保全活動

### ボランティアによるクロマツ植樹

～元気に育て！ 僕らの願いを込めて～

爽やかな青空の下、庄内森林管理署と連携して、4月15日に庄内海岸林（万里の松原）の新林国有林内で、ボランティアによるクロマツの植樹会を行いました。

庄内海岸沿いの松林は、先人達が多くの苦勞を重ねながらクロマツを植林し、松林として育て、育った松林は、飛砂、潮、強風から農地や家屋を守ってきました。そのマツが、松くい虫の被害等により、松林の中に空間ができ、その役割を十分に発揮できなくなることが懸念されています。

このため、万里の松原に親しむ会、NPO庄内海岸のクロマツをたたえる会、地元自治会、酒田市広報による一般参加者等約30名でクロマツの苗木150本を植付けしました。

このような小さな活動が、庄内海岸林の貴重な松林を守り、育て、将来に引き継がれることを希望し、気持ちのよい汗をかき、事故なく終了しました。



### 庄内海岸林の美化活動を実施

～流した汗だけきれいになりました～

庄内海岸のクロマツ林や海浜にゴミが目立ち、庄内海岸のクロマツ林の優れた景観を損ねるだけでなく、新たなゴミの投棄を誘発させる原因にもなりかねないことから、今年も5月13日に庄内海岸林の環境美化活動を行いました。

この活動は、庄内森林管理署と連携して行っており、今回は、遊佐町青塚地区の国有林を含む庄内海岸林周辺において、地元自治会やNPOボランティア団体等と協働で行いました。

当日は、薄曇りではあったものの作業には適した天候となり、休日やメロン



の定植などの農作業の忙しい中、80名の方たちに参加していただき、砂草地からクロマツ林内にかけて散乱しているビニール袋、ペットボトルや発泡スチロールなどのゴミの回収作業を行いました。

今回の活動は、遊佐町の海岸林周辺において実施したにもかかわらず、多くの酒田市民の方たちに加していただき、地域を越えてクロマツ林が成育している庄内海岸を大切にしていこうという気持ちが伺われました。

作業が終わってみると、わずかな面積や作業時間に、およそ700kgものゴミが集まり、参加した人たちは驚いていました。

ひと汗かいたあと、全員に配られたカート缶のお茶でのどを潤し、最後に、酒田市、遊佐町の各自治会の代表の方から、これからも一緒になって、庄内海岸をきれいにし、クロマツ林を守るために、地域を越えて協力していこうとの話がありました。

## 浜中クロマツ林保育 ～子供とボランティアによる保活動育～



8月26日(土)に、酒田市浜中地区に所在する国有林で、浜中小学校6年生と父兄、教職員、浜中自治会、浜中長寿会、酒田市職及び庄内海岸のクロマツ林をたたえる会など約60人が、クロマツ林の下草刈りや除伐などの保育作業を行いました。

これは、最近、庄内海岸のクロマツ林が松食い虫などの被害を受けて、本数が減った箇所などにニセアカシアやツル類が侵入し、このままではクロマツ林の維持・保全に悪影響を与える恐れがあるため、日頃、クロマツ林から防風・防砂などの恵みを受けている地元の方達がクロマツ林を守り育て、次代に健全な姿で引き継ぐことを目的に行ったものです。

当日は、暑いなか、みんなが一生懸命に鎌を振るって、クロマツなどの稚樹が育ちやすいようツルなどを刈り払っていました。

無事に作業を終えた後、冷たい水やお茶などでのどを潤しながら、自分たちの刈り払ったク

ロマツ林の木陰で、同地区の歴史的財産であるクロマツ林の歴史などについて、



「浜中の歴史を探る会」の高山勘之助さんから学びました。

## 森林ボランティア活動の 支援

～酒田北高校：森林整備ボランティア活動～

身近にある美しいクロマツ林を守る活動を通して、厳しい風砂を防ぐために



植林し、すばらしい環境を創ってきた地域の歴史を知るとともに、次世代に引き継ぐことの意義を感じ取るため、6月14日(水)に1年生82名、3年生83名が酒田市内の国有林などでクロマツ林の下刈り、除伐作業を行いました。当センターは、庄内署、庄内総合支庁、関係団体とともにスタッフとして参加し、作業の指導を行いました。

～酒田市都市公園等環境美化活動～

先人達が残してくれた松林を今度は市民自らの手で守り育てていこうという意識を高めることを目的に、



6月25日(土)に庄内海岸のクロマツ林をたたえる会、万里の松原に親しむ会、地元自治会、学校関係、市職員、県職員など84名が参加し、クロマツ林でおおわれた公園一帯のつる切り、不要木の伐採、ゴミ拾いなどの作業を行いました。



### ～ 酒田第一中学校：クロマツ林を守る活動～

美しいクロマツ林に囲まれた環境を守る具体的な活動を通じて、地域の歴史を知り、次世代に引き継ぐ意識の高揚を図るため、今年も7月3日（月）に1年生90名が学校近くのクロマツ林で下草刈り、枝打ちを行いました。

当センターも庄内署、庄内総合支庁、庄内海岸のクロマツをたたえる会、万里の松原に親しむ会、酒田市などとともにスタッフとして参加し、作業の指導を行いました。

### ～ 遊佐中学校：森林整備体験学習～

町のシンボルともいえるクロマツの砂防林は、暮らしと産業の基盤になっている歴史的遺産



であるが、松くい虫被害などの多くの問題を抱えている。このため、この砂防林の整備を実施し、先人の偉業を学ぶとともに、地域課題に取り組んだ奉仕活動とするため、9月13日（水）3年生180名が15班に分かれて、遊佐町十里塚地区の国有林及び民有林で下刈り、除伐を行いました。

当日は、当センターのほかに庄内署、庄内総合支庁、庄内海岸のクロマツ林をたたえる会、遊佐町、遊佐森林組合がスタッフとして、作業の指導にあたりました。



### ～ 酒田工業高校：砂防林整備ボランティア活動～

環境を学ぶ生徒たちが、自分たちの町を守るための活動に参加することで、砂防林の重要性、整備活動の大切さを実感し、将来にわたって環境保全に関わりながら生活する人材を育成することを目的として、10月20日（金）に118名の生徒がクロマツの枝打ち、除伐を行いました。当センターからもスタッフとして参加し、現地で指導を行いました。

### ～ 「砂防林を育てよう」活動～

「地域の森林は地域の力で守り育てる」という主旨のもと、今年も11月12日（日）に酒田



田市飯森山西地区のクロマツ林の整備活動が行われました。

当日は時折曇りが舞う中、小学生から大人までおよそ150名が参加し、枝打ち、つる切り、不要木の伐採を行いました。

この活動は、光ヶ丘の松林整備活動（酒田市都市公園等環境美化活動）とともに、酒田市における「住民参加の森づくり運動」の拠点活動となっています。



### ～ 遊佐町西山地区森林整備ボランティア活動～

今年も西山地区の砂丘林の保全に対する取組の一環として、12月3日（日）に森林整備活動が行われました

当日は、小雨まじりの寒い中、地元小学生から地区住民の方たちまで、およそ150名が参加し、林内の下刈り、つる切り、枝払い、雑木の除去を行いました。



### 3 高館山自然休養林の 保全活動

#### 高館山での森林整備 ～ ボランティアによる稚樹刈り出し～

高館山周辺では、松くい虫被害やナラ枯れ被害により上層木を欠いた小面積の無立木地が点在しています。このような箇所の中には、アカマツやコナラなどの稚幼樹が発生しているところが見られます。この稚幼樹の生育環境を改善するため、7月22日(土)に地元大山自治会、尾浦の自然を守る会、鶴岡市職員など21名が参加し、稚幼樹を被っている草や灌木の刈り払いを行いました。



#### 高館山自然休養林で パトロールを実施



鶴岡市の西方に位置する高館山は、里山には珍しく、ケヤキの大径木や奇形木、ブナ、分布上貴重な植物が自生するなど多くの植物を見ることができます。

特に融雪間もない早春期には、キクザキイチリンソウ、カタクリ、オオミスミソウなどの可憐な花々が手軽に見られるポイントとして地元はもとより県内外にも知られています

当センターでは、空き缶などのポイ捨てや植物の盗掘などを未然に防止するために、3月下旬から4月中旬にかけてパトロールを実施しています。



(キクザキイチリンソウ)



(カタクリ)



(オオミスミソウ)

## 4 緑の回廊における取組

### 第2回「土湯の森」自然再生検討会

～土湯の森の回復に向けて～



緑の回廊内にある「放置されたスキー場跡地をどのように森林に再生していくか」を検討するため、7月5日、現地検討を兼ねた第2回鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊（土湯の森）自然再生検討会が、委員8名全員の出席により開催されました。

当日は、午前中に最上川スキー場跡地で植生の状況、コース内の浸食の状況等を確認し、午後からは戸沢村役場会議室で、再生の基本的な方向性などについて意見交換が行われました。

委員からは、現地検討を踏まえ「植え付け手も根付くかどうか」、「まずは浸食を防ぐことが重要」、「種をまく必要はない」、「自然に発生した稚樹が育つような環境作りが大事」さらには、「地域の小・中学生等を対象とした自然環境教育への活用」、「地域との連携」などといった自然再生に向けた活発な意見が出されました。



こうした色々な意見がある中で、「大規模な土地の改変は行わない」、「自然環境教育の場としても活用」という意見については、委員全員が共通していました。

今後、各委員から出された意見を踏まえ、自然再生への取組等の基本構想（案）を作成し、次回検討会で議論することとしています。

### 第3回「土湯の森」自然再生検討会

～基本構想まとまる～



旧最上川スキー場跡地の森林再生の基本構想が、10月24日に開催された第3回鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊（土湯の森）自然再生検討会で取りまとめられました。

『基本構想』では、自然の回復力を活用して森林再生することを原則とし、市民参加による活動とも連携して、緑の回廊としての機能回復を目指すこととしています。

取組に当たり、比較的稚樹の発生が多い区域は自然の推移に委ねる「自然推移ゾーン」、稚樹の発生が少ない区域は、試験的に人の手を加える「森林再生ゾーン」としています。また、取組の有効性を検証するための植生の推移のモニタリングや、自然環境学習の場としても活用することとしています。

今後は教育関係者やNPO等を加えた「自然再生協議会」を発足させ、具体的な取組の実施計画を策定することとしています。

## 5 森林環境教育の推進

### 朝日自然塾発足

～自然と人間のかかわりをテーマに  
森林環境教育～



朝日山地森林生態系保護地域及びその周辺地域において、体験活動型森林環境教育を推進する「朝日自然塾」の発足式が、8月27日西川町大井沢の「セミナーハウス」で行われました。

朝日自然塾は東北森林管理局と朝日山地森林生態系保護地域管理委員会の構成団体等10団体により運営されるもので、各プログラムの講師は関係する団体のメンバーが務めることになります。また、それぞれの団体の代表者でつくる連絡協議会において、プログラムや参加費の決定、講師とスタッフの配置について調整を行うことになっています。

発足式では、東北森林管理局福田局長から「この朝日自然塾が関係団体と連携・協力し、すばらしい形で発展して頂きたい」との挨拶があり、引き続き、関係団体による協定書の調印が行われました。調印後協定団体を代表して、山形県溪流釣り協議会の斎藤会長から、「将来の森林環境保全を担う子供達に、精神的に高い経験を持って応援させていただきます」と力強い挨拶を頂きました。また、来賓を代表して、朝日山地森林生態系保護地域管理委員会の浅沼座長、西川町の近松町長から支援のお言葉を頂きました。

最後に、朝日自然塾連絡協議会の事務局を担当する当ふれあいセンターの伊藤自然再生指導

官から、今年度予定している小中学生の親子を対象とした5つのプログラムを発表し、自然と人間とのかかわりなどをメインテーマとした朝日自然塾がいよいよスタートすることとなりました。



拠点施設の「セミナーハウス」

### 《朝日自然塾開講の様子》



イワナの生態の話と釣り体験（9月9日）



森林の冬支度（紅葉）と大鳥池伝説（9月23日）



親子でかまくらづくり（3月3日）

## 6 森林倶楽部を支援

### 第1回森林倶楽部

#### ～新緑の滝巡りで健康イオン満喫～

まさに五月晴れの天気となった5月27日、森林倶楽部第1回イベントを、新緑に包まれた山形県遊佐町にある「二の滝溪谷」で実施しました。

当日は、秋田市と山形市の双方からバスを運行することもあり、99名の会員が参加しました。

イベント参加のため前泊された方を含め、早朝から2時間以上バスに揺られながらも、集合場所の一の滝駐車場に着いた皆さんの顔は元気そのものでした。

開会式では、東北森林管理局を代表して挨拶した高倉指導普及課長から「天気も上々、新緑と滝のマイナスイオンで今日一日を充分楽しんでほしい」と力のこもった挨拶がありました。引き続き、地元署を代表して竹内署長からは、「自分の誕生日にこの場所で森林倶楽部が実施されるという大変記念に残る日になりました」と熱烈歓迎の挨拶がありました。

準備体操を行った後、八班に分かれて散策へスタートしました。

10分くらい行くと、700年の歴史を刻む一の滝神社の前にある深く切れ込んだ溪谷の上流に、轟音とともに高さ20mの「一の滝」が出現しました。

滝壺の近くに設置された展望台に降りて、マイナスイオンを浴びながら、水量豊富で豪快な滝を堪能しました。



さらに溪谷沿いを進んで行くと、約20分で二の滝へ到着です。毎年二月には「二の滝氷柱探勝会」というイベントが行われる勇壮な滝の前で記念撮影を行いました。

二の滝からは少しずつ登りながら40分くらいで三の滝へ到着しました。高さ80mから階段状に落ちてくる滝の勇壮さと、汗ばんだ身体をヒンヤリと包んでくれる涼風に、暫し至福の時間を過ごしました。

下りは往路の対岸にある歩道を通り、途中新緑のブナ林でグリーンシャワーを思いっきり浴びながら、出発場所まで戻って思い思いに楽しい昼食タイムとなりました。

午後からは、鳥海山八合目から湧きだしている「胴腹滝」へと向かい、二つの滝から流れる湧水をペットボトルに詰め込んだり、両方の味比べを楽しみました。

最後は、散策で汗ばんだ身体を温泉浴でさっぱりとし、秋田方面、山形方面へとそれぞれ帰路に着きました。



### 第3回森林倶楽部

#### ～伝説の花クロユリを訪ねて～

山形県内は”梅雨空の真っ只中”という表現がピッタリの7月上旬、森林倶楽部第3回イベントを月山で実施しました。

当日の天気は大方の予想を裏切り？晴れのち曇り、降水確率ゼロとなりました。天気が良いとなると、俄然スタッフの声も弾み、「昨日の天気祭りが効いたんだ」、「いや～昨日のが効いたんだ」、「俺は天気男と云われているんだ」と、まさに唯我独尊状態・・・。

さて、参加者49名を載せた大型バス2台は、残雪のきらめく月山を目指し、山形自動車道月山インターから、湯煙が立ち込める志津温泉を抜け、標高1100㍍にある姥沢駐車場へ到着しました。

ここからリフト駅まで少し歩いた後、他のスキー客や登山客で混雑する中をペアリフトに乗り込み、15分で標高1500㍍のリフト上駅に到着しました。



最初にアタックする標高1670㍍の姥ヶ岳は雪に覆われていて、その斜面で夏スキーを楽しむ人達が賑わいを見せる中、倶楽部会員の皆さんは、残雪の上を一步一步足場を確かめるようにして最初のキツ～イ関門を登りました。

姥ヶ岳山頂は雪もなく、チングルマ、ヨツバシオガマ、ウズラバハクサンチドリ、ミヤマキンバイなどが鮮やかな色彩で私たちを迎えてくれました。

姥ヶ岳から金姥、紫灯森へと向かう途中では、ハクサンイチゲ、ミヤマキンポウゲ、ミヤマリンドウなどの花々を楽しみながら頂上直下の牛首へ到着しました。



(ミヤマクロユリ)

ここから山頂への最後の登りを前に、ため息をつく方、気合いで自身を奮い立たせる方などいろいろな表情を見せながら登りに挑戦しました。

途中、エゾノツガザクラ、アオノツガザクラ、ミネズオウなどの華麗な花々に足を止めながら乱れた呼吸を整え、ようやく月山山頂へ到着し、今回のメインであるクロユリ(ミヤマクロユリ)の群生地を心行くまで楽しみました。

初めて観賞した方からは、「意外に地味な色ねえ～」との感想も聞かれましたが、皆さんの顔は伝説のクロユリに对面出来たことと登頂の喜びで一杯の表情でした。



(エゾノツガザクラ)

頂上にあるお花畑の横で、ちょっぴり遅くなった昼食を楽しんだ後、山頂にある月山神社を背景に記念撮影を行い、全員無事下山となりました。



## 7 各種イベント等

### ウッドフェスティバル2006

～ふれあいセンターの活動を紹介～

「木の温もり」、「木の柔らかさ」など「木」の持つ良さを直接肌で知る機会をつくり、その



社会的重要性をPRするウッドフェスティバルが、庄内地域の林業・木材関係団体等の参加により開催されました。今年は、10月に鶴岡市小真木原公園、11月に酒田市平田タウンセンターで行われ、ふれあいセンターも参加しました。

当センターは、朝日山地森林生態系保護地域、最上川スキー場跡地、庄内海岸林、朝日自然塾などでの活動をパネル展示して、来場者の方に紹介しました。

また、生態系保護地域の巡視員の協力を得て取水した朝日連峰の銘水や鳥海山の麓の銘水4種類を来場者の方に試飲していただきました。試飲された方の中には、取水には大変苦労のかわかることを知り、貴重な水に感激していました。



今回は天気にも恵まれ、二つの会場でおよそ29千人の来場がありました。当センターにも1千人を超える地域の方が訪れ、これまでの活動内容を紹介することができたものと思います。

### 森と水そして月光のしらべ

～新文化創造～

6月10日（土）、11日（日）の2日間にわたり「森と水そして月光のしらべ」が開催



されました。これは、南庄内地域の市町村が合併したことを機会に、新市民が地域の風土、伝統文化などを認識し、次世代に引き継いでいくことを目的に行われました。

初日は、月山ダム湖面でコンサートが行われ、二日目は、六十里越街道のトレッキングと街道

沿いにある千手ブナの周囲でコンサートが行われました。



当センターも後援、協力し、二日目の日に、ブナ林で覆われた街道を歩いて来た人達に、ブナの新葉を見てもらいながら、今年はブナの実が豊作であったこと、また、ある新聞記事にブナの新葉を食してみるとなかなか美味であったことが掲載されていたことなどを紹介しました。

その後、子供たちの合唱、横笛演奏などが行われ、爽やかに流れる風と、ブナの葉音が演奏と一体となり、心地の良いメロディーとなりました。



(新聞記事紹介)





庄内海岸林の保全、整備活動等関連記事

H18.4.16(日) 荘内日報  
(クロマツ植樹活動)



H18.4.18(火) 山形新聞  
(クロマツ植樹活動)



H18.5.14(日) 山形新聞  
(環境美化活動)





鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊自然再生検討会関連記事

H18.7.6(木)山形新聞

(第2回自然再生検討会)



H18.10.25(水)山形新聞

(第3回自然再生検討会)



朝日自然塾関連記事

H18.8.28(月)山形新聞

(朝日自然塾発足式)





東北森林管理局 朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター

〒997-0404 山形県鶴岡市下名川字落合3

電話：0235-58-1730 F A X：0235-58-1731

ホームページ：http://www.fureai-kokuyurin.jp